

令和5年度第1回恵那市市史編さん委員会 次第

日時：令和5年6月9日(金)午後3時30分
会場：恵那市役所 会議棟 大会議室

1 開会

2 教育長あいさつ

3 委員の委嘱、任命

4 委員長あいさつ

5 議事

(1) 副委員長の選出

(2) 「恵那市史 平成合併編」に関する令和5年度の計画等について

(3) 現在の進捗状況の報告

6 閉会

恵那市市史編さん委員		
所属	氏名	選出区分
市議会議長	千藤 安雄	市議会を代表する者
岐阜女子大学教授 恵那市市史専門委員会代表者	丸山 幸太郎	学識経験を有する者
恵那市文化財保護審議会代表者	森川 彰夫	学識経験を有する者
大井地域自治区会長	柘植 恒雄	地域自治区を代表する者
長島地域自治区会長	和仁 誠	地域自治区を代表する者
東野地域自治区会長	保母 鎮利	地域自治区を代表する者
三郷地域自治区会長	小木曾 信夫	地域自治区を代表する者
武並地域自治区会長	渡辺 武彦	地域自治区を代表する者
笠置地域自治区会長	石原 甲喜	地域自治区を代表する者
中野方地域自治区会長	柘植 昭男	地域自治区を代表する者
飯地地域自治区会長	瀬織 佳恭	地域自治区を代表する者
岩村地域自治区会長	原田 英明	地域自治区を代表する者
山岡地域自治区会長	若森 慶隆	地域自治区を代表する者
明智地域自治区会長	杉山 淳	地域自治区を代表する者
串原地域自治区会長	平林 道博	地域自治区を代表する者
上矢作地域自治区会長	安藤 常雄	地域自治区を代表する者
総務部長	加藤 元章	関係行政機関の職員
まちづくり企画部長	柘植 克久	関係行政機関の職員
議会事務局長	熊谷 春彦	関係行政機関の職員

委員長

事務局		
教育委員会事務局 事務局長	鈴村 幸宣	
生涯学習課 課長	柄澤 史枝	
課長補佐	三宅 唯美	
歴史資産整備係長	三宅 英機	
主査	伊藤 智穂	
会計年度任用職員	鈴木 奏恵	

『恵那市史 平成合併編』について

1. 概要

令和6年10月の市制20周年の節目に向け、平成13年度の合併協議会設置の経緯から現在までの新市20年の歴史を『恵那市史 平成合併編』として編さんし、後世に記録を残す。

規格はB5版、350ページ程度、縦書き。1,300冊を発行予定。

2. 委員会の設置

・恵那市市史編さん委員会

主な所管事務は、市史編さんに関する基本方針及び計画策定に関すること、刊行に必要な連絡調整に関すること等。委員は、市議会、文化財保護審議会、及び地域自治区を代表する者、並びに学識経験を有する者、関係行政機関の職員で構成。

・恵那市市史編さん専門委員会

編さん基本方針に基づく調査、執筆、編集等を行う。委員は、市史編さんに関し専門的知識を有する者で構成。

・任期は、両委員会とも委員委嘱の日から令和7年3月31日まで。

恵那市市史編さん専門委員		
	氏名	主な経歴等
監修者	丸山 幸太郎	岐阜市史・恵那市史・上矢作町史等執筆、監修
執筆者	三宅 勝義	元吉田小学校長、市ふるさと学習読本編著
執筆者	山内 正一	元瑞浪南中学校長、上矢作町史執筆
執筆者	小板 忠昭	元山岡中学校長、上矢作町史・市ふるさと学習読本編著
執筆者	山村 茂美智	元医療福祉部長、山岡町役場企画課係長
執筆者	西部 良治	元教育委員会事務局次長、学芸員

3. 監修

丸山幸太郎氏：岐阜女子大学文化創造学部教授。地域文化研究所長。

上矢作町史刊行委員、執筆監修。岐阜県史、大垣市史、恵那市史等共著。

三郷町出身。

4. 令和5年度以降の計画

R 5年4月14日 編さん専門委員会開催(執筆内容の確認等)
6月9日 第1回編さん委員会開催
7月中旬 編集・校正・印刷業者の入札、契約
7月14日 編さん専門委員会開催(執筆内容の確認等)
9月下旬 ノ
11月下旬 ノ
R 6年1月中旬 最終原稿提出
1月下旬 編さん専門委員会開催(執筆内容の確認)
2月下旬 第2回編さん委員会開催
3月下旬 監修、校正
5月中旬 6年度第1回編さん委員会開催
6月上旬 最終校正、最終監修
8月上旬 印刷製本開始
10月25日 発刊、恵那市制20周年記念式典にて配布
市ホームページに全ページを掲載

5. 予算

・令和4年度執行額 合計 694,551 円

・令和5年度予算 合計 4,024,999 円

※主な内訳	印刷製本費(編集、校正込)	1,386,000 円
	委員報償費等	217,960 円
	会計年度任用職員経費	2,357,989 円
	消耗品等	63,050 円

・令和6年度想定予算 6,891,000 円

※主な内訳	印刷製本費	3,073,000 円
	原稿執筆料、会計年度任用職員経費等	3,818,000 円

6. 検討事項(表紙の体裁)

案1 布クロス表紙で従来の市史の体裁 箱入り
案2 カラーの表紙カバーを付けた体裁 箱なし

恵那市市史編さん委員会設置要綱（令和4年8月30日告示第120号）

（設置）

第1条 恵那市市史の編さん（以下「市史編さん」という。）に係る事業を実施するため、恵那市市史編さん委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（所掌事務）

第2条 委員会は、次に掲げる事務を所掌する。

- (1) 市史編さんに関する基本方針及び計画の策定に関すること。
- (2) 市史の監修に関すること。
- (3) 市史編さん及び刊行に必要な連絡調整に関すること。
- (4) その他市史編さんに関する事項に関すること。

（組織等）

第3条 委員会は、委員25人以内をもって組織する。

2 委員会の委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱又は任命する。

- (1) 市議会を代表する者
- (2) 学識経験を有する者
- (3) 恵那市文化財保護審議会を代表する者
- (4) 地域自治区を代表する者
- (5) 関係行政機関の職員
- (6) その他市長が必要と認める者

（任期）

第4条 委員の任期は、委嘱又は任命の日から翌々年度の3月31日までとし、再任を妨げない。ただし、委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長及び副委員長）

第5条 委員会に、委員長及び副委員長各1人を置く。

- 2 委員長及び副委員長は、それぞれ委員の互選により選出する。
- 3 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

（会議）

第6条 委員会の会議（以下「会議」という。）は、委員長が招集し、委員長が議長となる。ただし、委員の委嘱及び任命後最初に開かれる会議は、市長が招集する。

- 2 委員会は、委員の半数以上の出席がなければ、会議を開くことができない。
- 3 会議の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

(専門委員会)

第7条 委員会に、市史編さん基本方針に基づく調査、執筆、編集等を行うため、恵那市市史編さん専門委員会（以下「専門委員会」という。）を設置する。

2 専門委員会は、市史編さん専門委員（以下「専門委員」という。）10人以内をもって組織する。

3 専門委員は、市史編さんに関し専門的知識を有する者及び関係行政機関の職員のうちから、市長が委嘱又は任命する。

4 専門委員会に専門委員長を1人置き、専門委員の互選によって定める。

5 第4条の規定は、専門委員の任期に準用する。

6 専門委員長は、専門委員会を代表し、会務を総理する。

7 専門委員長に事故があるとき、又は専門委員長が欠けたときは、専門委員長のあらかじめ指定する専門委員が、その職務を行う。

8 前条の規定は、専門委員会について準用する。この場合において、前条第1項及び第4項中「委員長」とあるのは「専門委員長」と、前条第1項及び第2項中「委員会」とあるのは「専門委員会」と、前条第1項から第4項まで中「委員」とあるのは「専門委員」と読み替えるものとする。

9 前各項に定めるもののほか、専門委員会の運営に関する必要な事項は、専門委員長が会議に諮って定める。

(庶務)

第8条 委員会及び専門委員会の庶務は、教育委員会事務局生涯学習課において処理する。

(その他)

第9条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関する必要な事項は、委員長が会議に諮って定める。

附 則

この告示は、告示の日から施行する。

第一部 合併の概要

「恵那市史・平成合併編」全体構想案

第一章 一市五か町村の規模

三	二	一	第三節	七	六	五	四	三	二	一	第一節	七	六	五	四	三	二	一	第一節
人口	地勢	位置	沿革	文化	産業	面積	人口	地勢	位置	沿革	旧惠那市	沿革	文化	産業	面積	人口	地勢	位置	旧岩村町
旧山岡町																			

六	五	四	三	二	一	第六節	七	六	五	四	三	二	一	第五節	七	六	五	四	三	二	一	第四節
文化	産業	面積	人口	地勢	位置	沿革	文化	産業	面積	人口	地勢	位置	沿革	文化	産業	面積	人口	地勢	位置	沿革	文化	産業
旧上矢作町																						旧明智町

担当：西部委員

担当：山村委員

七 沿革

第二章 任意合併協議会の設立

- 第一節 任意協議会設立までの経緯
 - 第二節 市町村合併に関する調査報告書の概要
 - 第三節 任意協議会の組織
 - 第四節 会議の経過
 - 第五節 住民への周知
 - 第六節 法定協議会への移行
- ←
- 第三章 法定合併協議会
- 第一節 設立までの経緯
 - 第二節 組織
 - 一 事務局
 - 二 協議会委員
 - 三 小委員会、幹事会、専門部会、分科会
 - 四 合併協議会における調整・協議項目
 - 五 住民アンケート
 - 六 新市将来構想
 - 七 新市まちづくり計画
 - 八 合併協議会確認項目
 - 九 合併協定書調印
 - 十 合併申請書提出
 - 十一 6市町村閉庁式

担当：山内委員

第一部 新市の変遷

- 第十二節 新「恵那市」誕生
 - 第十三節 合併までの経緯
- ←

第二章 政治・行政

- 第一節 歴代市長の施政方針
 - 一 可知市長施政方針
 - 二 小坂市長施政方針
- 第二節 市発展の総合計画

担当：山内委員

九

- ・「いいじ里山バス」の運行
- ・朝ドラロケ地

・「日本100名城」「岐阜の宝物」認定

・電線地中化事業

・いわむらグランデデザイン策定

・ホットいわむら

・交流協会設立

十 山岡地区の計画と活動

・都市再生計画事業

・田んぼアート

・小学校校舎体育館改築

・資源回収ヒマリーステーション

・デマンドバスの運行

十一 明智地区の計画と活動

・まちづくりフォーラム

・大河ドラマ館

・大正百年事業開催

・大正村新村長竹下景子氏就任

・浪漫亭リニューアルオープン

・吉田小学校閉校

十二 串原地区の計画と活動

・地域づくり住民会議

・移住定住促進事業

・地域観光資源の発掘

・伝統文化の保存伝承

・公共施設の移転

担当：小板委員

十三 上矢作地区の計画と活動

- ・道の駅リニューアル
- ・福寿の清水

・ドローンを活用したまちづくり

・農林業に新規参入

・大船神社本殿文化財指定

・資源回収ステーション

第六節 市民意識の高揚（市民意識調査の推移）

第七節 市民サービス

一 地域医療

（一）恵那市の地域医療のあり方

（二）新市立恵那病院

（三）国保上矢作病院

（四）各国保診療所

二 子育て支援

（一）子育て世代包括支援

（二）こども元気プラザ

（三）こども発達センター

（四）放課後児童クラブ

（五）病児保育所

三 健幸推進

（一）健幸都市宣言

（二）母子保健事業

（三）透析センター

（四）新型コロナウイルス感染症対策

四 福祉

（二）地域包括支援センター	（六）東雲大橋開通
（二）福祉相談福祉センター	（七）中央公園整備事業
（三）手当医療給付	（二）リニアまちづくり
（四）民生児童委員協議会	（二）リニア中央新幹線
（五）社会福祉協議会	（二）リニアまちづくり構想策定
（六）介護保険	（三）まちづくり基盤整備計画策定
（七）恵那市老人クラブ連合会・シルバー人材センター	
五 防 灾	
（一）消防防災センター建設	（二）明知鉄道沿線地域公共交通計画の策定
（二）消防団再編成（消防団大規模災害隊発足・消防団女性消防隊結成・機能別消防団発足・消防団拠点施設集約・中野方救急分遣所開所）	（二）まちなか移動手段整備
（三）防災対策（地域防災・防災マップ）	（三）交通コンシェルジュ設置
六 窓 口	（四）蒸気機関車復元
（一）窓口サービス改善（休日窓口開始・開庁期間延長・証明書広域交付・キヤツシユレス決済）	（五）無線放送・音声告知器設置
（二）国民保険徴収根拠統一・税制等項目調整	（六）ＩＣＴ活用推進計画の策定
（三）確定申告等事前予約システム開始	
（四）ソーラーパネル自動検出	
（五）スマートフォンアプリ収納サービス開始	
第八節 環境整備	
一 都市計画	
（一）恵那市景観計画の策定	
（二）大崎・正家区画整理事業	
（三）市道飯地中野方線改良	
（四）岩村町並み活用化推進事業	
（五）瑞浪恵那道路工事着工	

（二）上下水道事業統合	（二）上下水道事業統合
（三）給水拡張事業	（二）特定環境保全公共水道事業
（三）竹折浄化センター	（三）竹折浄化センター
（四）料金検針方法統一	（四）料金検針方法統一
五 環境管理	
（一）恵那市環境基本条例策定	
（二）ゼロカーボンシティエナ宣言	
（三）地域常設資源回収拠点	
（四）ふれあいエコプラザ開設	
（五）エコセンター恵那・衛生センター・えな斎苑統合等	
（六）一般廃棄物最終処分場更新（し尿処理全域委託化・ごみ処理手数料統一・広域一般廃棄物処理の基本合意）	

第三章 産業・経済

第一節 産業構造の変化

- 一 産業別就業人口（事業所および就業者の産業別比率など）
- 二 産業別生産規模（製造品出荷額の産業別比率など）

第二節 農林業

- 一 農業生産の基盤と推移
 - (一) 耕地の状況
 - (二) 農家の規模と形態・生産の状況
 - (三) 特色ある農畜産物

二 農業振興

- (一) 恵那市農業活性化計画・農林業振興ビジョンの策定
- (二) えな笠置山栗園整備事業
- (三) ジバスクラム恵那設立と活用
- (四) たべる事業推進計画の策定・たべとるマルシェ開催
- (五) 「つなぐ棚田遺産」認定
- (六) 「発酵の町づくり」推進
- (七) 豚熱による全頭処分
- (八) ほ場整備拡充

三 林業生産の基盤と推移

- (一) 林業の現状と課題
- (二) 林業の規模と形態

四 林業振興

- (一) えなの森林づくり基本計画の策定
- (二) えなの森林づくり推進委員会設置

第二節 商工業

一 商工業の現状と課題

- (一) 販売額・出荷額の推移
- (二) 事業者数及び就業者数の推移
- (三) 商工業の現状と課題

二 基盤整備

- (一) 産業振興会議設置（恵那市産業振興ビジョン策定）
- (二) 中小企業等振興条例制定
- (三) 恵那市商工会合併
- (四) ゼロカーボンシティえな宣言（温暖化対策実行計画）
- (五) 地域新電力「えな電力株式会社」設立

三 商工振興

- (一) 恵那くらしビジネスサポートセンター開所
- (二) ジバスクラム恵那設立と活用
- (三) アエルショッピングオーパン・（アエルサイト開設）
- (四) 地域新電力「えな電力株式会社」設立
- (五) SOZO Trialspace ENA開設

四 企業誘致

- (一) 恵那テクノパーク第3期拡張工事完成
- (二) 恵那西工業団地造成工事開始

第四節 觀光業

- (一) 觀光業の現状と課題
- (二) 觀光交流人口の推移
- (一) 恵那市観光ビジョンの策定

- (三) 恵那市森林整備計画の策定
- (四) 木の駅プロジェクト
- (五) 水源の森づくり協定

二 観光資源と観光施設

(四) 地歌舞伎等

担当：小板委員

- (一) 恵那峡・笠置峡（恵那峡リニューアル・大井ダム等）
- (二) 中山道大井宿・宿本陣（ひし屋資料館・中山道美術館等）
- (三) 農村景観日本一・岩村城跡「日本100名城」認定等
- (四) 明智城跡・日本大正村（大正浪漫亭リニューアル等）
- (五) 根ノ上高原（アウトドア・保古グランピング等）
- (六) 笠置山と笠置峡（ボルダリング・坂折棚田・ヒカリゴケ・カヌー施設等）

- (七) 伝統芸能
- (八) えなてらす・道の駅
- (九) 五平餅・栗きんとん・寒天・朴葉寿司等
- (十) 寿老の滝・ささゆりの湯・アライダシ原生林等

三 観光企画

- (一) 一般社団法人恵那観光協会統合
- (二) ジバスクラム恵那設立と活用
- (三) 農林業体験里山ツアー
- (四) 中山道ぎふ17宿旅歩き
- (五) 動画DEえくな
- (六) 「麒麟がくる」・「半分、青い。」
- (七) 大正百年記念イベント
- (八) 公式キャラクター「エーナ誕生
- (九) WRC活用推進

四 文化交流

- (一) 山城サミット・お城EXPO
- (二) 哽鳴フォーラム
- (三) 恵奈の里次米みのりまつり

第四章 教育・文化

担当：三宅委員

(四) 地歌舞伎等

一 まちづくり計画

- (一) 学校教育
- (二) 生涯学習
- (三) 文化

(四) スポーツ

- 二 総合計画、行財政改革の流れ
- 三 少子高齢化と財政難

第一節 学校教育

一 こども園

(一) 幼保一元教育の実現

・こども園の認定区分・こども園の特徴

・恵那市幼児教育の重点

・特色あるこども園の活動

- (一) 公立保育園の運営上の課題
- (二) サービス維持への選択

- (三) 保育園・こども園の委託
- (四) 保育園・こども園の委託
- ・市が責任制度を導入
- ・具体的な委託の経緯
- ・委託の評価

- (五) 保育園・こども園の統合
- (六) 保育園・こども園の廃園

- （五）長島幼稚園、二葉幼稚園の廃園
- （六）佐々良木保育園閉園
- （七）中学生がまちづくりに参画
- （八）中学生、市長と語る会
- （九）長島幼稚園、二葉幼稚園の新築移転等と小規模保育所の開園
- （十）惠那市子ども展
- （十一）中学生がまちづくりの提案
- （十二）地域社会との連携
- （十三）岩村高校の閉校（岩村高校閉校の経緯）
- （十四）惠那南高等学校
- （十五）惠那南高校スタート
- （十六）惠那南高校特色ある教育活動への支援
- （十七）惠那南高校通学支援
- （十八）惠那南高校と地域と中学校との連携
- （十九）惠那南高校文部科学大臣賞受賞
- （二十）地産地消で表彰
- （二十一）ロマン学園構想
- （二十二）惠那特別支援学校
- （二十三）惠那特別支援学校の開校
- （二十四）惠那農業高校
- （二十五）耕作放棄地利用で成果
- （二十六）給食の献立を考案し交流
- （二十七）実際の投票箱で生徒会選挙
- （二十八）生涯学習
- （二十九）コミニティセンターへ
- （三十）公民館からコミニティセンターへ
- （三十一）コミニティセンターの施設
- （三十二）武並コミニティセンター新築
- （三十三）新規開設
- （三十四）地域に根差した活動・体験学習
- （三十五）ICT教育・英語教育・LGBTへの理解
- （三十六）少子化と学校の統合
- （三十七）地域学校協働活動
- （三十八）学校運営協議会（コミニティ・スクール）の設置と推進
- （三十九）学校に対する人的環境の整備
- （四十）学校週五日制、週休二日制
- （四十一）土曜授業の復活
- （四十二）地域社会との連携
- （四十三）吉田小の閉校・合併
- （四十四）旧恵南地区五中学校統合の検討
- （四十五）新しい学校教育への取り組み
- （四十六）地域に根差した活動・体験学習
- （四十七）基礎・基本の徹底・教育・特別支援教育
- （四十八）教育相談・キャリア教育・読書活動の充実
- （四十九）学校間交流事業

- （五十）中学生がまちづくりに参画
- （五十一）中学生、市長と語る会
- （五十二）中学生がまちづくりの提案
- （五十三）地域社会との連携
- （五十四）岩村高校の閉校（岩村高校閉校の経緯）
- （五十五）惠那南高等学校
- （五十六）惠那南高校スタート
- （五十七）惠那南高校特色ある教育活動への支援
- （五十八）惠那南高校通学支援
- （五十九）惠那南高校と地域と中学校との連携
- （六十）惠那南高校文部科学大臣賞受賞
- （六十一）地産地消で表彰
- （六十二）ロマン学園構想
- （六十三）惠那特別支援学校
- （六十四）惠那特別支援学校の開校
- （六十五）惠那農業高校
- （六十六）耕作放棄地利用で成果
- （六十七）給食の献立を考案し交流
- （六十八）実際の投票箱で生徒会選挙
- （六十九）生涯学習
- （七十）コミニティセンターへ
- （七十一）公民館からコミニティセンターへ
- （七十二）コミニティセンターの施設
- （七十三）武並コミニティセンター新築
- （七十四）新規開設
- （七十五）地域に根差した活動・体験学習
- （七十六）ICT教育・英語教育・LGBTへの理解
- （七十七）少子化と学校の統合
- （七十八）地域学校協働活動
- （七十九）学校運営協議会（コミニティ・スクール）の設置と推進
- （八十）学校に対する人的環境の整備
- （八十一）学校週五日制、週休二日制
- （八十二）土曜授業の復活
- （八十三）地域社会との連携
- （八十四）吉田小の閉校・合併
- （八十五）旧恵南地区五中学校統合の検討
- （八十六）新しい学校教育への取り組み
- （八十七）地域に根差した活動・体験学習
- （八十八）基礎・基本の徹底・教育・特別支援教育
- （八十九）教育相談・キャリア教育・読書活動の充実
- （九十）学校間交流事業

- ・東野コミュニティセンター大規模改修

二

三学の推進

- (一) 生涯学習の考え方の変遷
- (二) 市民三学運動
- (三) 三学のまち推進計画
- (四) 三学の精神とは
- (五) 三学のまち推進計画の概要
- (六) 生涯学習都市宣言

- ・「三学のまち恵那」宣言の制定記念式典
- ・子供の読書活動推進計画
- ・恵那三学塾の開校
- ・中央図書館
- ・恵那市中央図書館開館
- ・開館までの経緯
- ・恵那市中央図書館、開館五周年
- ・ありがとうございました〇〇〇〇万人
- ・天の川イベント
- 三 青少年育成
- (一) 子どもの安全を守る
 - ・下校放送
 - ・見守り隊の結成
 - (二) 子どもの心身を鍛える
 - ・恵那てくてくの旅
 - (三) 子どもの芽を伸ばす
 - ・こどもフェスタ
 - (四) 子どもの視野を広げる
 - ・国際交流事業

(五) 成人式の統一

- ・平成二三年成人式・平成二九年成人式
- ・平成三十一年成人式・令和二年成人式

(六) 青少年育成市民会議

- ・青少年主張大会

(七) 中学生生徒会が共同宣言

四 子ども支援

(一) 家庭教育支援

- ・家庭教育を取り巻く状況
- ・こども元気プラザ

・パパママ学級

・ひよこパ・ママ学級

・乳幼児学級

・こども教室の開催

(二) 恵那市家庭教育支援計画

(三) 子ども・子育て支援事業計画

(四) 次世代育成支援行動計画

第三節 文化

一 文化振興会

(一) 文化振興会、文化協会の統合

(二) 恵那市文化振興会の取り組み

・芸能祭・市美術展

二 市の先人顕彰

(一) 下田歌子

- ・下田歌子賞の創設・下田歌子生誕一五〇年
- ・「きらりうたこ」寄贈・実践女子学園

(二) 佐藤一斎

- ・ 嘸鳴フォーラム開催

(三) 三好学

- ・ 三好学生誕一五〇年祭
- ・ 三好学の漫画本が完成

(四) 山本芳翠

- ・ 山本芳翠生誕一六〇年

(五) 地域の誇り「恵那の先人三十人」

- ・ 取り上げられた三〇人
- ・ 編集委員

(六) ふるさと学習読本の発刊

- ・ 修復された文化財を公開

三 伝統文化の継承

- ・ 正家廃寺跡保存と展示が両立の整備

(二) 地歌舞伎

- ・ 正家廃寺跡の実像に迫る報告会

(三) 築前琵琶

- ・ 岩村城、日本100名城に選定・岩村城を守る会の発足・岩村本通り

(四) 文化の創造

- ・ 岩村城を守る会の発足・岩村本通り

(五) 文化の伝承

- ・ 史跡を後世へ（三郷町の史跡を訪ねて）

(六) 文化の継承

- ・ 史跡を後世へ（三郷町の史跡を訪ねて）

(七) 築前琵琶

- ・ 史跡を後世へ（三郷町の史跡を訪ねて）

(八) 築前琵琶

- ・ 史跡を後世へ（三郷町の史跡を訪ねて）

四 歴史資産

(一) 建造物

- ・ 岩村街並み風土100選・武並神社本殿再建
- ・ 行在所改修・大井行在所改修、長屋門移築

(二) 史跡

- ・ 正家廃寺跡保存と展示が両立の整備

(三) 正家廃寺跡の調査報告

- ・ 正家廃寺跡の実像に迫る報告会

(四) 岩村城

- ・ 岩村城、日本100名城に選定・岩村城を守る会の発足・岩村本通り

(五) 史跡

- ・ 史跡を後世へ（三郷町の史跡を訪ねて）

(六) 文化財

- ・ 修復された文化財を公開

(七) 産業遺産

- ・ シクラメン

(八) 養蚕

五 文化施設

(一) 中山道広重美術館

- ・ 美術館、金曜日が観覧料無料

(二) 中山道ひし屋資料館

- ・ 中山道ひし屋資料館と志田邸・東海道町民生活歴史館が姉妹館提携

(三) 中野方ふるさと資料館

- ・ 中山道ひし屋資料館と志田邸・東海道町民生活歴史館が姉妹館提携

(四) 文化施設の廃止

- ・ 総合型地域スポーツクラブの立ち上げ

第四節 スポーツ

(一) スポーツ振興

- ・ 総合型地域スポーツクラブの立ち上げ
- ・ 総合型地域スポーツクラブとは

- ・クラブの特徴
- ・新市発足当時の取り組み状況
- (一) 国民体育大会と恵那市
 - ・開催に向けて
 - ・園児・児童生徒の積極的な参加
 - ・国体炬火パレード&リレー
 - ・皮切りにスケート競技
 - ・ぎふ清流国体弓道競技
 - ・スポーツ推進計画
 - ・ぎふクリスタル国体2021
 - ・スタートアップイベント
- (二) 東京オリンピック
 - ・東京オリンピック
 - ・東京オリンピックボート・カヌーの事前キャンプ地誘致
- (三) 東京オリンピック事前キャンプ地誘致
 - ・ボーランドカヌー連盟と市と協定
 - ・東京2020オリンピック事前キャンプの実施
 - ・東京2020パラリンピック聖火採火式
- (四) スポーツイベント
 - ・レクスボーンフェスティバル2014
 - ・市長杯スピードスケート競技会
 - ・県クリスタルパーク恵那スケート場で初の国際大会
 - ・全国レクリエーション大会IN岐阜
 - ・夏季巡回ラジオ体操・みんなの体操会
 - ・女性ラリー大会
- (一) まきがね公園
 - 二 スポーツ施設
 - ・スケート場
 - ・スケート場に話題の新スポーツが登場

- 第五節 教育委員会
- 一 教育計画
 - (一) 教育大綱
 - (二) 三学の精神
 - 二 教育委員会事務局
 - (一) 新しい教育委員会
 - ・教育委員会事務局内の組織の変遷
 - ・教育委員会の組織を改編
 - ・幼・保育園は教育委員会に移動
 - ・市役所の組織の再編
 - (二) 事務局の移転
 - ・新しい市庁舎が完成、教育委員会の配置が大きく変化
 - 第六節 新型コロナウイルス感染症による影響
 - 一 緊急事態宣言発令
 - 二 子どもたちを新型コロナウイルス感染症から守る
 - (一) 小中学校、こども園などすべて休み
 - (二) 休校中の学習を支援

- (ii) 教師が映像で遠隔授業
- 三 小中学校などを再開
- (1) 学校再開に向けたガイドライン
 - (2) 再開のスケジュール
 - (3) 学習の進め方
 - (4) 授業日数の確保
 - (5) 心のサポート
 - (6) アンケート結果
 - (7) 再開後の学校現場
- 四 教育・文化における市の新型コロナウイルス感染症対策
- (1) 教育総務
 - ・遠距離通学補助
 - ・奨学金猶予措置
 - ・給食費の無償化
 - ・給食メニューの工夫・トレーの工夫
 - ・給食センターの賄材料費を補助
 - (1) 学校教育
 - ・ウェブの授業
 - ・新型コロナウイルス感染症対策教育連携会議
 - ・スクールサポートスタッフ
 - ・ＩＣＴの活用
 - ・キャンセル料
 - (1) 幼児教育
 - ・給食費の無償化
 - ・通常保育の再開
 - ・飛沫飛散防止、密の回避
 - ・スポーツ施設

第三部 資料

※平成十二年（2001）～令和三年（2021）の二十年間の歩み
～図表・グラフ・写真・地図・名簿・資料（史料）～

体裁

表装
題名
(※検討中)
惠那市史 平成合併編

題字	惠那市長 小坂喬峰
口絵	写真（8頁程度）
挨拶	恵那市長 小坂喬峰
はじめに	監修者 丸山幸太郎
例言	別紙参照
目次	第一部・第一章・第一節・一・(1)・項目 前頁参照
本文	横書き、3段 9ポイント
索引	縦書き、2段 9ポイント
年表	恵那市教育長 岡田庄一
あとがき	編さん関係者名 編さん委員、専門委員、担当者、
名簿	資料写真提供等協力者・機関一覧名等 主な出典・参考文献
表紙見返し	恵那市地図
裏表紙見返し	恵那市字分布図